

平成 20 年度 事業 報告

(平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで)

I. 事業 の 概 況

当財団は、昭和 42 年 8 月設立以来、わが国の健康上の課題である「生活習慣病」に関する事業を一貫して展開している。

平成 20 年度も三本の柱である「医学研究助成」「生活習慣病集団検診」「小冊子刊行・頒布」事業の更なる効率化と予算の有効活用に注力して事業活動を行った。

1. 医学研究助成事業

第 41 回医学研究助成は、全国の大学・研究機関の研究者を対象に公募を行い、44 件の推薦応募の中から 20 研究に対して助成を行った。第 17 回特別助成の 3 研究と併せて、総額 2,450 万円の助成金を贈呈した。

第 1 回からの助成金合計は 845 件、総額 10 億 1,000 万円となった。

2. 検 診 事 業

検診事業は、7 項目(胃部、胸部、循環器、血液、便、眼底、VDT)の集団検診を実施した。

検診先・受診者減があり、年間延受診者数は 44,040 名で、前年度に対し 888 名の減少(対前年 98.0%)となった。

検診業務開始以来の延受診者数は 1,700,096 名となった。

3. 小冊子刊行事業

健康増進ガイドは、増刷 10 種類を刊行した。

年間頒布数は 19,041 冊であり、昭和 43 年創刊以来の頒布数は約 423 万冊となった。

平成 20 年度の各事業の実施状況は、次頁以下のとおりである。

1. 医学研究助成

(1) 第 41 回「医学研究助成」

44 件の推薦応募があり、選考委員会を経て 20 研究を決定、平成 20 年 9 月 18 日に贈呈式を行い、1 研究につき 100 万円、総額 2,000 万円の助成金を贈呈した。助成対象者は【別表】のとおりである。

(2) 第 17 回「医学研究特別助成」

第 39 回研究助成(平成 18 年度)入選者の研究報告 20 件を対象とし、選考委員会を経て 3 研究を決定、第 41 回医学研究助成と同日の贈呈式で、1 研究につき 150 万円、総額 450 万円の助成金を贈呈した。助成対象者は【別表】のとおりである。

< 第 1 回からの助成金累計 >

	平成 20 年度		累 計	
	件 数	助成金額	件 数	助成金額
医学研究助成	20 件	2,000 万円	779 件	9 億 3,800 万円
特 別 助 成	3 件	450 万円	66 件	7,200 万円
合 計	23 件	2,450 万円	845 件	10 億 1,000 万円

(3) 第 39 回「医学研究助成」研究報告の発表

第 39 回研究助成入選者の研究報告を、当事業団発行の「医学研究助成研究報告集」に掲載し発表した。

(4) 第 42 回「医学研究助成」(平成 21 年度実施)

平成 21 年 1 月、ホームページ及び毎日新聞に募集要項を掲載した。また、推薦依頼機関(大学・研究機関 120)に募集要項を送付し、推薦を依頼した。

第 42 回研究課題は次のとおり決定している。

- ①糖尿病合併症の予防と早期診断(臨床研究)
- ②脊柱管狭窄症の新しい治療法
- ③肺癌治療の新たな展開
- ④R F A の適応と限界(他の治療法との比較)

*応募締め切りは平成 21 年 5 月 10 日。

第41回「医学研究助成」20研究 総額2,000万円／1研究100万円

- 研究課題 1. インスリン抵抗性改善の介入研究
 2. 急性心筋梗塞のリハビリテーション
 3. C型肝炎－最近の治療の進歩
 4. マイクロ手技による再建手術の新たな展開

(課題別申込受付順)

研究者	研究主題
琉球大学大学院医学研究科 准教授 安 隆則 他2名	脂肪毒性惹起インスリン感受性低下に対する レニン-アンギオテンシン系の関与
千葉大学医学部附属病院 講師 高野博之 他3名	PPAR γ 活性化作用を有するアンジオテンシン II受容体拮抗薬の心血管保護に関する臨床研 究
三井記念病院 医長 五十川陽洋 他2名	インスリン抵抗性に対するチアゾリジン誘導 体とビッグアナイド剤併用療法のRBP4を介した 効果
奈良県立医科大学 助教 成瀬勝彦 他5名	アディポネクチンを指標とした妊娠糖尿病お よび妊娠高血圧症候群の早期予知と介入効果 ～インスリン抵抗性周産期疾患の減少を目指 して～
朝日生命成人病研究所 主任研究員 榎山暁史 他3名	糖尿病患者に対するインスリン抵抗性介入が もたらす動脈硬化症への影響のバイオアッセ イ
国立健康・栄養研究所 研究員 坪田 恵 他2名	1年間の栄養指導介入による栄養素摂取、食事 パターンの変化が、インスリン抵抗性改善に どのような影響を与えるか～佐久肥満克服プ ログラム～
滋賀医科大学医学部附属病院 医員 森野勝太郎 他2名	インスリン抵抗性に対する魚食介入の有効性 及び分子機構の検討
名古屋大学総合保健体育科学センター 教授 近藤孝晴 他1名	栄養指導および運動トレーニングのインスリ ン感受性改善効果に及ぼす遺伝的要因の検討
国立循環器病センター 部長 北風政史 他	軽症糖尿病におけるインスリン抵抗性改善に よる心筋梗塞再発予防に関する研究
埼玉医科大学国際医療センター 講師 小泉智三 他3名	ST上昇型急性心筋梗塞患者の急性期心臓リハ ビリテーションにおける動脈炎症の指標およ びsoluble CD40 ligandの経時的変化の検討

研究者	研究主題
名古屋大学医学部附属病院 助教 平敷安希博 他7名	急性心筋梗塞に対する遠隔指導による回復期の心臓リハビリテーションの効果
名古屋市立大学大学院医学研究科 病院講師 菅内文中 他4名	間質性肺炎の発症リスクからみたC型慢性肝炎に対するペグインターフェロン (PEG-IFN) 療法の選択
東北大学大学院医学系研究科 研究生 椎名正明 他1名	HCV培養系を応用した、in vitro免疫ネットワーク解析による、理想的な新規治療選択と開発
浜松医科大学 教授 三浦直行 他1名	新規HCV受容体claudin-1を分子標的とする感染予防薬の開発
山口大学大学院医学系研究科 助教 古元礼子 他1名	C型肝炎ウイルスの感染拡大と肝炎の進行における肝臓アポリポ蛋白Eの役割の解明
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 准教授 池田正徳 他1名	治療抵抗性C型肝炎ウイルスに対する新しい治療法の開発
順天堂大学医学部 准教授 今村 宏 他3名	C型肝炎由来の同時および異時性多発肝細胞癌における多中心性発生と肝内転移のゲノム解析による分類と臨床病理学的分類の比較と妥当性の検討
京都大学再生医科学研究所 准教授 中村達雄 他3名	生体内再生 (<i>in situ</i> Tissue Engineering) の手法を用いたマイクロ手術による新しい末梢神経外科の開発
三重大学医学部附属病院 助教 辻井雅也 他4名	マイクロ手技への人工核酸テクノロジーの導入
日本医科大学千葉北総病院 病院講師 太組一朗 他1名	整容脳神経外科的見地からみたAestheticを意識した脳神経外科・頭蓋顎顔面外科分野におけるマイクロサージェリーによる新しい頭蓋再建方法の開発

第17回「医学研究特別助成」3研究 総額450万円／1研究150万円
 (第39回「医学研究助成」研究報告を対象)

- 研究課題 1. 生活習慣とメタボリックシンドローム(臨床的研究)
 2. 高齢者の骨折予防
 3. 大腸癌診療の新たな展開
 4. 医療安全の向上

研究者	研究主題
関西医療大学 教授 津田和志	メタボリックシンドロームの病態生理を細胞膜機能異常から考察する -電子スピン共鳴ならびにスピンラベル法を用いた検討-
愛知県がんセンター研究所 室長 近藤 豊 他2名	DNAメチル化異常の検出を応用した大腸がんの発がん予測マーカーに関する研究
国立がんセンター東病院臨床開発センター 部長 松村保広 他1名	便からの大腸がん細胞分離に基づく新しい大腸がん遺伝子診断法の開発

2. 生活習慣病集団検診

本年度の延受診者数は、全検査項目(7項目)合計で 44,040 名、前年度に対し 888 名の減少となった。(対前年 98.0%)

各項目の内訳は次のとおりである。

<検査項目別受診者数>

(単位：名)

検査項目	平成 20 年度	平成 19 年度	増 減
胃 部	7,049	7,317	△ 268
胸 部	9,429	9,683	△ 254
循 環 器	8,955	9,250	△ 295
血 液	9,494	9,791	△ 297
検 便	4,635	4,708	△ 73
眼 底	3,397	3,126	271
V D T	1,081	1,053	28
合 計	44,040	44,928	△ 888

(注) △は減を示す。

職域団体と地域団体の受診者割合は、職域 66%・地域 34%と職域の割合が高い。

* 検診業務開始以来の延受診者数は 1,700,096 名となった。

(1) 検査項目別要精検率

検査項目	受診者数	要精検者数	要精検率	
胃 部	7,637 名	861 名	11.3%	
胸 部	9,980	120	1.2	
循 環 器	血 圧	10,110	1,331	13.2
	尿	10,320	977	9.5
	心電図	9,606	86	0.9
血 液	10,050	2,892	28.8	
検 便	4,937	260	5.3	
眼 底	3,395	310	9.1	

(注) 平成 20 年 1 月～12 月の受診者 11,734 名を対象とする。

(2) 胃部要精検者の追跡調査結果

(1)の胃部要精検者について、追跡調査を行った結果は次のとおりである。

(平成 21 年 3 月末現在)

① 精検受診および回答状況

要精密検査者数	861 名
精検受診回答者数	566 名
精検未回答者数	295 名

② 精検受診回答結果の内訳

胃がん	6 名 (0.08%)
胃ポリープ	114 名 (1.49%)
胃潰瘍	33 名 (0.43%)
胃炎	233 名 (3.05%)
その他	58 名 (0.76%)
異常なし	122 名 (1.60%)
合計	566 名 (7.41%)

- (注) 1. 胃潰瘍には潰瘍癒痕を含む。
2. その他は十二指腸潰瘍、胃粘膜下腫瘍など。
3. () 内は胃部受診者数(7,637 名)に対する占率。

(3) 大腸要精検者の追跡調査結果

(1)の大腸要精検者について、追跡調査を行った結果は次のとおりである。

(平成 21 年 3 月末現在)

① 精検受診および回答状況

要精密検査者数	260 名
精検受診回答者数	129 名
精検未回答者数	131 名

② 精検受診回答結果の内訳

大腸がん	6 名 (0.12%)
腺腫性ポリープ	42 名 (0.85%)
非腺腫性ポリープ	7 名 (0.14%)
その他	31 名 (0.63%)
異常なし	43 名 (0.87%)
合計	129 名 (2.61%)

- (注) 1. その他は良性腫瘍、大腸憩室、痔疾患など。
2. () 内は検便受診者数(4,937 名)に対する占率。

(4) 特定健康診査

特定健康診査を行った結果は次のとおりである。

性別	保健指導レベル	35～39歳		40歳～74歳		合計	
男性	積極的支援	41	10.8%	334	14.0%	375	13.6%
	動機付け支援	32	8.4%	214	9.0%	246	8.9%
	情報提供	306	80.7%	1,837	77.0%	2,143	77.5%
	計	379	100.0%	2,385	100.0%	2,764	100.0%
女性	積極的支援	6	2.4%	41	2.8%	47	2.7%
	動機付け支援	9	3.6%	93	6.3%	102	5.9%
	情報提供	237	94.0%	1,332	90.9%	1,569	91.3%
	計	252	100.0%	1,466	100.0%	1,718	100.0%
合計	積極的支援	47	7.4%	375	9.7%	422	9.4%
	動機付け支援	41	6.5%	307	8.0%	348	7.8%
	情報提供	543	86.1%	3,169	82.3%	3,712	82.8%
	計	631	100.0%	3,851	100.0%	4,482	100.0%

・特定健診は40才以上75才未満が対象だが、健保組合によっては35才以上を対象としているため、上記の年齢区分とした。

・特定健診の保健指導対象者の具体的な選定と階層化の方法

ステップ1	腹囲とBMIで内臓脂肪蓄積のリスクを判定	
	・腹囲 男性85cm以上 女性90cm以上 *	→(1)
	・腹囲 男性85cm未満 女性90cm未満かつBMI 25以上	→(2)
	* 男女とも、内臓脂肪面積100cm ² 以上(CTスキャン等)に相当	
ステップ2	①血糖 空腹時血糖値 \geq 100、HbA1c \geq 5.2、服薬	
	②脂質 中性脂肪 \geq 150、HDLコレステロール $<$ 40、服薬	
	③血圧 収縮期血圧 \geq 130、拡張期血圧 \geq 85、服薬	
	④質問票 喫煙歴あり(①～③が1つ以上該当の場合にカウント)	
ステップ3	(1)の場合	ステップ2の①～③が2つ以上該当 積極的支援レベル
		ステップ2の①～③が1つ該当 動機付け支援レベル
		ステップ2の①～③が該当無し 情報提供レベル
	(2)の場合	ステップ2の①～③が3つ該当 積極的支援レベル
		ステップ2の①～③が1つまたは2つ該当 動機付け支援レベル
		ステップ2の①～③が該当無し 情報提供レベル
ステップ4	○服薬中の者は特定保健指導の対象としない。	
	○65歳以上75歳未満の者は、積極的支援対象でも動機付け支援とする。	

・腹囲・BMI測定結果

性別	腹囲・BMI	35～39歳		40歳～74歳		合計	
男性	基準内	240	63.3%	1,352	56.7%	1,592	57.6%
	基準外	139	36.7%	1,033	43.3%	1,172	42.4%
	計	379	100.0%	2,385	100.0%	2,764	100.0%
女性	基準内	217	86.1%	1,182	80.6%	1,399	81.4%
	基準外	35	13.9%	284	19.4%	319	18.6%
	計	252	100.0%	1,466	100.0%	1,718	100.0%
合計	基準内	457	72.4%	2,534	65.8%	2,991	66.7%
	基準外	174	27.6%	1,317	34.2%	1,491	33.3%
	計	631	100.0%	3,851	100.0%	4,482	100.0%

(5)メタボリックシンドローム判定

生活習慣病集団検診の受診者を対象としたメタボリックシンドローム判定は次のとおりである。

性別	メタボリック判定	～39歳		40歳～		合計	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
男性	基準該当	56	4.6%	387	15.0%	443	11.7%
	予備群	108	8.9%	395	15.3%	503	13.3%
	非該当	1,048	86.5%	1,800	69.7%	2,848	75.1%
	計	1,212	100.0%	2,582	100.0%	3,794	100.0%
女性	基準該当	4	0.9%	60	3.8%	64	3.1%
	予備群	8	1.8%	73	4.6%	81	4.0%
	非該当	430	97.3%	1,457	91.6%	1,887	92.9%
	計	442	100.0%	1,590	100.0%	2,032	100.0%
合計	基準該当	60	3.6%	447	10.7%	507	8.7%
	予備群	116	7.0%	468	11.2%	584	10.0%
	非該当	1,478	89.4%	3,257	78.1%	4,735	81.3%
	計	1,654	100.0%	4,172	100.0%	5,826	100.0%

・特定健診は40才以上75才未満が対象のため、39才以下と40才以上で区分した。
但し、40才以上には75才以上も含む。

・メタボリックシンドロームの判定基準

基準該当	：腹囲基準値外かつ、高血圧・高血糖・脂質異常の内2項目以上抵触
予備群	：腹囲基準値外かつ、高血圧・高血糖・脂質異常の内1項目抵触
非該当	：腹囲基準範囲内 または 腹囲基準値外かつ、高血圧・高血糖・脂質異常の抵触項目なし
基準抵触とは	
腹 囲	：男性85cm以上、女性90cm以上
血 圧	：収縮期血圧130以上、または拡張期血圧85以上、または服薬中（血圧を下げる薬）
血 糖	：空腹時血糖値110以上、または服薬中（インスリン注射、血糖を下げる薬）
脂 質	：中性脂肪150以上、またはHDLコレステロール40未満、または服薬中（脂質を下げる薬）
* 空腹時血糖値を測定せず、HbA1cのみ測定の場合は、HbA1c5.5以上。事業団では該当なし。	

* 「平成18年国民健康・栄養調査」によると、
・男性40～74才は、メタボリックシンドローム該当 24.4%、予備群 27.1%
・女性40～74才は、メタボリックシンドローム該当 12.1%、予備群 8.2% となっている。
事業団の受診者の結果を比較すると、男女共に国民健康栄養調査の結果を大きく下回っている。

・腹囲測定結果

性別	腹囲	～39歳		40歳～		合計	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
男性	基準内	933	77.0%	1,604	62.1%	2,537	66.9%
	基準外	279	23.0%	978	37.9%	1,257	33.1%
	計	1,212	100.0%	2,582	100.0%	3,794	100.0%
女性	基準内	415	93.9%	1,410	88.7%	1,825	89.8%
	基準外	27	6.1%	180	11.3%	207	10.2%
	計	442	100.0%	1,590	100.0%	2,032	100.0%
合計	基準内	1,348	81.5%	3,014	72.2%	4,362	74.9%
	基準外	306	18.5%	1,158	27.8%	1,464	25.1%
	計	1,654	100.0%	4,172	100.0%	5,826	100.0%

3. 健康増進ガイドの発行・頒布

ガイド名を「成人病(生活習慣病)ガイド」から「健康増進ガイド」に変更した。
平成20年度は増刷10種(20,000冊)を刊行した。
三井生命広報誌(5月・12月)にガイド案内を掲載した。
平成20年度の頒布数は19,041冊となった。

(1) 増刷(10種:20,000冊)

No. 2	肺がん	2,000冊
No. 3	高血圧	2,000冊
No. 4	胃がん	2,000冊
No. 9	脳卒中	2,000冊
No. 26	更年期障害	2,000冊
No. 38	心不全	2,000冊
No. 45	狭心症	2,000冊
No. 48	老人性難聴	2,000冊
No. 62	腹痛	2,000冊
No. 63	アレルギー性鼻炎	2,000冊

(2) 頒布数

頒布先	平成20年度	平成19年度
三井生命	18,109冊	26,069冊
一般	932冊	2,825冊
合計	19,041冊	28,894冊

*昭和43年7月に第1号を創刊してからの頒布数は約423万冊となった。

(3) インターネットを利用した健康情報が広く社会に浸透してきたこと、一般読者からのガイド注文数が減少傾向にあること等から、3月末にガイドの発行、頒布の事業を終了した。今後は、ホームページを利用した健康情報提供等の健康増進活動を推進していく予定である。

4. その他

(1) 公益法人制度改革の動向について

平成20年12月1日より、公益法人制度改革3法が施行され、従来の財団法人は、特例民法法人(特例財団法人)となった。

平成25年11月30日までの、5年間の移行期間が設けられており、移行申請状況及び審査状況の動向に関する情報の把握に努め、新しい制度の下での事業団における目的、事業活動、機関設計、会計・財務・財産、情報公開、内部統制などの認定認可基準との整合性の確保を目指し検討を進めた。

(2) 介護分野の「調査研究業務」

「介護サービスの調査研究」に係る委託業務については、その収支・日程等を検討した結果、エントリーを見送った。

II. 理事会、評議員会に関する事項

第155回理事会 平成20年5月21日(水)開催

- (1) 平成19年度事業報告、決算報告(収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録)認定の件
原案どおり認定された。
- (2) 評議員推薦の件
石川博一氏・成瀬行弘氏の2氏が新たに推薦された。

第43回評議員会 平成20年5月21日(水)開催

- (1) 平成19年度事業報告、決算報告の件
- (2) 平成20年度事業計画、収支予算報告の件
(1)(2)とも全員の諒承を得た。
- (3) 理事および監事選任の件
理事には、大島剛氏・佐野陽子氏の2氏が再任、新たに上村修三氏が選任された。
監事には、新たに安孫子正人氏が選任された。

第156回理事会 平成20年5月21日(水)開催

- (1) 理事長互選の件
理事長には上村修三氏が選任された。

第157回理事会 平成20年11月12日(水)開催

- (1) 平成20年度上半期事業報告の件
 - ①平成20年度上半期の事業概況および収支計算
 - ②平成20年度下半期の事業および収支計算見込み全員の諒承を得た。
- (2) 第42回「医学研究助成」事業計画決定の件
原案どおり決定された。

第158回理事会 平成21年3月24日(火)開催

- (1) 平成20年度事業概況および収支計画見込み報告の件
- (2) 平成21年度事業計画および収支予算案決定の件
 - (1)については全員の諒承を得た。
 - (2)については原案どおり決定された。

III. 理事、監事、評議員の異動に関する事項

- (1) 評議員 石川博一氏・成瀬行弘氏は平成20年5月21日に就任された。
- (2) 上村修三氏は平成20年5月21日、理事に就任された。
- (3) 安孫子正人氏は平成20年5月21日、監事に就任された。